

令和8年度

徳島市上八万学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○敬和の心を深め、自ら学び、たくましく歩む生徒の育成
 ・授業改善(指導技術の向上、ICTの活用)をはかり、わかる授業を展開する。
 ・信頼を基盤とした学級経営により、「主体的・対話的で深い学び」の実現。
 ・全教職員で取り組む、ポジティブ行動支援体制づくり。

校長

岩佐 真次

学力向上推進員

長尾 亮太

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、アンケート等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○新しい知識や技能を習得することに対して前向きであり、基本的な知識や技能を身に付けている。 ●知識の習得が受け身の、発展的課題に取り組む際のあきらめが早いときがある。	・十分な知識技能を身に付け、発展的な課題に粘り強く取り組むことができる。	・小テストや、毎時間のふりかえりシートを活用するなど、モールステップによる知識技能の定着を図る。 ・「正確に読む力」、「必要な情報を取り出す力」を育成し、自立した学習ができることをめざした授業を創造する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書き出すことや友達に自分の意見を聞いてもらうことが好きであるし、互いの意見を聞き合うことができる。 ●他者にわかりやすく伝えられるように、根拠や理由を交えたり、文を簡潔にまとめたりすることが苦手である。	・獲得した知識を比較・関連して理解する力が身に付いている。 ・目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力が身に付いている。	・思考力、判断力、表現力等の向上につながる授業のあり方を各教員が考え、共有する機会をもつために、相互に授業参観を行う参観ウィークを設定する。 ・学習形態の工夫やICTの活用により、粘り強く考えたり、協働して活用問題に取り組んだりする時間をつくる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業態度が真面目で与えられた課題に前向きに取り組むことができる。友だちと協力しながら学習することが好きである。 ●自らの学びを調整し、課題克服に向けた計画を立てたり、質問をしたりすることについては十分でない。	・学ぶことの意義や喜びを実感し、自らの学びを調整しながら、粘り強く学習に取り組むことができる。	・自分の将来の夢や進路に関連付けながら、自分なりの短期目標と長期目標を設定したり、計画したりする時間を設ける。 ・意欲的に取り組むことができるよう、自主学習ノートの好事例を共有して実践させる。 ・生徒用タブレットの活用案を教員間で共有できるように研修を実施する。			